

留学体験記

国際学部国際文化学科二年

21018067 高橋祐貴

私は中国の北京師範大学に約四か月間留学をしました。この北京で学んだ四か月間は大変有意義なものであったと実感しています。なぜ留学をしようと思ったかは、中国の文化を現地で直接学びたかったから、そして中国語の力を伸ばしたいと考えていたからです。留学生活の序盤では授業、日常生活でも中国語が聞き取れないことが多く、不安に感じていました。しかし、日に日に自分の中国語の力が上達していっているのを実感できました。上達を実感できた出来事として、最初はタクシーの運転手と会話は全くできなかったのですが、留学生活の後半では相手が何を言っているのか聞き取れるようになってきたことです。

学校生活では多くの国の生徒と交流することもでき、多くの国の文化を聞くなどとても有意義な学校生活であったと思います。授業は中国語で行われて、発言をする機会も与えられるので中国が上達するのは間違いないと思います。授業以外でも食堂や買い物などでも中国語を話して練習する機会は多々あるので自分から積極的に話すということが重要だと思います。中国語を習うだけでなく、習ったことを実際に使ってみるということはとても大切だと感じます。話す機会はどこにでもあるので積極的に話してみるのが良いと思いました。また、空き時間では外国の友人と一緒に北京を観光するなど、貴重な時間を過ごすことができました。外国の友人と観光することは異文化交流、そして中国語を話す練習にもなっているのでとても有意義な時間となりました。日本で生活しているだけではなかなか異文化交流することは難しいですが、留学では言語を勉強することだけではなく日々異文化交流をすることができるので、そこも留学のメリットだと感じました。さらに現地で直接文化を学び感じ取ることもできるのも留学の良いところだと思います。また、中国の食に関しては全体的に脂っこい料理が多かったと感じました。そして辛い料理も多かったと感じました。

北京で学んだ四か月は中国語の上達や外国の友人ができたことなど、とても有意義な四か月でした。四か月は長いように感じますが、日々充実した生活を送ることができたのであつという間に感じました。日本で中国語を学ぶこともできますが、やはり現地で直接学ぶということは多くの意味があると思います。特に自分から積極的に中国語を使って海外の人と交流するのが良いと感じました。